

令和5年度 学校関係者評価実施報告書

学校番号	6	学校名	静岡県立浜松聴覚特別支援学校	記載者	教頭 春田美賀子
------	---	-----	----------------	-----	----------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
いきいき	互いを認め合う人権感覚を高め、豊かな心を育む指導の充実	児童生徒は、相手の意見を聞けたり自分の意見を言えたりできている。	A	A	主体的に授業に臨んでいる姿が見られました。
		異なる考えでも受け止め、相手を尊重した言動ができている。	A	A	
	安全・安心な生活のための環境・体制づくり	児童生徒は、自分の健康や命を守る方法を理解し行動できている	A	A	
		緊急時の初動体制を理解し、迷わず対応ができる。	A	A	
		計画的、効率的に業務が遂行できている。	A	A	
		学校経営予算の計画的な執行により、修繕や購入が効率的に行えている。	A	A	
	わくわく	一人一人の言語力の獲得と、協働的な学びの授業や生活づくり	聴覚障害教育の専門性が高まり、その専門性を発揮して指導ができている。	A	A
児童生徒がわくわくする姿と、新しい学びのある授業ができている。 幼児児童生徒が主体的に対話し、学びが深まる授業ができている。			A	A	幼児期は親子のかかわりが大切なので、幼稚部で親子で様々な経験ができているのはよい。 普通校では代表の子しかできない経験がどの子もできることは貴重。
舎生が、「わくわく」した寄宿舎生活を送ることができている。 ・舎生が主体的に対話し、主体的に活動できている。			A	A	
読書活動をとおして、生活言語の拡充とコミュニケーション能力の向上ができている。			A	A	読書を推進していることが伺える。子ども達にも読書を通して言語力がついていると思う。

		児童生徒は、一人一台端末を活用することができている。 ICT 機器を有効に活用した授業が行えている。	B	A	これからの時代は ICT を避けては通れない。聴覚障害にとっては、ICT を活用することでコミュニケーションにも有効。一方で、手話などの基礎的な手段がおろそかにならないようにしたい。
し な や か	共生・共育と地域におけるセンター的役割の充実	生活経験が広がり、幼児児童生徒の成長を感じることができている。	A	A	様々な交流を通して、多くの刺激があり、学びを得ている様子が伺える。
		在籍校や医療機関等との連携を図れ、ニーズに応じた支援ができている。 研修や支援をとおして啓発ができている。	A	A	医療機関との連携は大切だが、個人情報保護も厳しくなっており、学校・保護者・病院の三者が同時に話す場面を設定しないとなかなか難しい。
	社会自立に向けた関係機関との連携強化	個別の教育支援計画や指導計画について、保護者と教員、教員間で共有し、活用することができている。	A	A	
		家庭や関係機関と連携し、社会自立に向けたキャリア教育や必要に応じたケース会議ができている。	A	A	
		自分や友達の良いところ得意なところを言え、自分らしさに気付ける指導や支援ができている。	A	A	
		児童生徒が、感謝の気持ちと夢を語ることのできる学習活動を実施できている。	A	A	創立百周年の活動を通して、子ども達に感謝の気持ちを持ち、自信を持って取り組んでいる様子が伺えた。